

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 955 号	氏名	古後 晴基
学位審査委員	主 査	神津 玲	
	副 査	澤井 照光	
	副 査	東嶋美佐子	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究の目的は、圧痕性浮腫に対する計測機器として新たに開発した圧痕深度計測の妥当性を検討することであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 外的基準を周径値および超音波画像による皮下軟部組織厚の2つに設定し、それぞれ異なる患者集団を対象とした。いずれも浮腫を呈する患者群であり、デジタルフォースゲージを用いて、第1および第5中足骨骨頭を結ぶ線の中央部分を約 20N の圧力で 10 秒間圧迫して圧痕を作成、10 秒間そのまま放置した後に、圧痕深度計測機器を用いてその深さを計測した。周径値は同部位の周径をテープメジャーで測定、皮下軟部組織厚の測定には超音波画像装置を使用し、皮下の脂肪層上部から第3中足骨骨頭の上部までの組織厚を計測しており、研究方法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、圧痕深度値と周径値との間に有意な相関関係を認めなかったが、皮下軟部組織厚との間には有意な正の相関関係 ($r_s=0.736$) を認めた。以上より、圧痕深度値は皮下軟部組織厚を反映していることが示され、圧痕性浮腫の定量評価として十分に妥当性のある評価法であることが示唆された。今後、臨床現場における浮腫の評価に関連する研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は浮腫の臨床的評価に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			